

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンボール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回
2018年1月15日
No.328



「第19回青森県高齢者大会」オープニング「登山囃子」ニリンクステーションホール青森（記事P3）



まちから村からの連帯で、ひとりぼっちの高齢者をなくそう

新年明けましておめでとうございます。
昨年、安倍内閣の戦争をする国づくりの推進とともに、5月に「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が成立し、介護保険に初めて利用料3割負担が初導入され、「地域包括ケアシステムの深化・推進」の名の下に地域住民の「自助・互助」による「地域共生社会」が打ち出されました。

また、年金のカットや医療・介護の自己負担増などによって健康破壊が一層進み、高齢者の暮らしはますます困難になっています。このような情勢の中、私たちは、「第31回日本高齢者大会in沖縄」で米軍基地問題や「オール沖縄」の運動を学び、交流する予定でした

が、残念ながら台風のため中止となりました。ご支援・ご協力いただいた皆様方には心から感謝とお詫びを申し上げます。

今年は、さらに高齢者をめぐる情勢が激動する年です。4月の診療報酬・介護報酬の同時改定や、国民健康保険の運営主体が市町村から都道府県に移管されるなどの大きな変化があります。

日本高齢期運動連絡会は、引き続き憲法9条の改悪と高齢者に負担を強いる制度改悪に反対し、高齢者のいのちと暮らしを守る運動、「まちから村からの連帯で、ひとりぼっちの高齢者をなくそう」の運動をすすめ、11月25～26日、静岡県熱海市で開催する予定の第32回日本高齢者大会を成功させる決意です。

今年度が、皆様にとって素晴らしい年になるように祈念して、新年の挨拶とします。

2018年 元旦
日本高齢期運動連絡会 代表委員
金子民夫 林泰則 松本弘道 小嶋満彦
事務局長 藤谷恵三

第32回日本高齢者大会開催予定
2018年 11/25 (日) 午後1時半
～11/26 (月) 正午
ニューフジヤホテル(静岡県熱海市)
※25日の宿泊も同所予定

すべての人たちの豊かな老後のために 「高齢者に係る社会保障関連政策に対する要望書」提出 恒例の年末座り込み行動 (12.13～12.15)

東京都老後保障推進協会・日本高齢期運動連絡会

日本高齢期運動連絡会と東京都老後保障推進協会は、2017年12月13日、加藤 勝信厚生労働大臣宛に、「高齢者に係る社会保障関連政策に対する要望書(平成30年度予算要求書)」を提出しました。この提出には、小嶋日本高齢期運動連絡会代表委員、城田都老協代表など9人が参加しました。藤谷日本高連事務局長が、要望書の内容の説明と回答への要望を行いました。

今回の要望は、重点を「社会保障費の削減を止めること」「年金の改悪をやめ充実を図ること」「医療・介護・福祉を充実させること」「高齢者の雇用を確保すること」の4つに絞り、13項目にまとめたものです。



合計101名の参加、カンパ：86,032円が寄せられました。

引き続き同日から15日までの3日間、恒例の年末座り込み行動を、厚労省南側の交差点付近で実施しました。今年の座り込み行動は、3日間で述べ101人の参加がありました。



最終日の12月15日は、今シーズン一番の冷え込みでしたが、3日間天候にも恵まれて、たくさんのビラ配布や対話ができました。

連日、東京社保協、中央社保協、シニア合唱団、神奈川社保協、東京自治労連、全日本年金者組合、東京高齢者連絡会、新日本婦人の会、東京ほくと医療生協、年金組合、全日本建設交運一般労働組合、全国生活と健康を守る会連合会、日本高齢期運動サポートセンター、都老後保障推進協会などから参加いただき、共感の訴えや歌声、差し入れなどたくさんの

激励をいただきました。また、9人の国会議員の方にもご参加いただきました。

最終日の集結式では、主催者を代表して藤谷恵三日本高齢期運動連絡会事務局長が、まとめを行いました。藤谷事務局長は、「現在、高齢者の暮らしが年々厳しくなっており、要求は切実さを増している。安倍内閣の年金、

医療・介護、生保、障害者などの施策は、『高齢者いじめ』としか言えない酷いものになっており怒りが広がっている。高齢期運動の輪をさらに広げ、若い世代、現役世代の問題として市民の共闘課題にしていこう。1月の厚労省交渉に結集しよう」と訴えました。

(要望書=P8)

～だれもが安心して暮らせる社会を～ 「第29回大分県高齢者大会」 116人が参加

大分県高齢期運動連絡会

第29回大分県高齢者大会は10月20日(月)、大分市のホルトホール・小ホールで午後1時30分から開催されました。大会には116名が参加しました。

大会の後援団体は大分合同新聞、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送の5団体でした。

記念講演は今回外部講師が都合で講演していただけなかったため、内部の講師にお願いしました。

「どうなる?! 私たちの年金」のテーマで年金者組合大分県本部書記長の佐久間研治氏が講演しました。講師は①年金受給者の現状について「下流老人」「老後破産の」の実態、②「年金」制度の種類について、③年金の歴

史について、④戦後の年金、⑤年金改革の経過、⑥年金だけで生活できない下流老人問題、⑦最低保障年金制度の創設の必要性など詳しく報告しました。年金が引き下げられるなかで、これを阻止し、改善への運動の強化を確認しました。

続いてみんなで歌おう うたごえ広場が「クールエスポールとその仲間みなさん」の音頭で行われました。青い山脈、学生時代、カチューシャ、沖縄を返せ、年金時代(青春時代の替え歌)を元気よく歌いました。

最後に医療生協、年金者組合、新婦人、生健会がリレートークを行い、各団体からの訴えがありました。

(記 大伴満男)

まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう ～憲法が輝く平和な未来と青森県を～

11・4「第19回青森県高齢者大会」に360人

青森県高齢期運動連絡会

青森県高齢期運動連絡会は11月4日(土)、リンクステーションホール青森で第19回青森県高齢者大会を開きました。

1、はじめに(開催に至る経過)

安倍政権の「森友」「加計」疑惑隠しのための臨時国会解散という党略的暴挙に端を発した突発的な先の総選挙は、希望の党という新たな自公補完勢力の誕生と、民進党の希望

の党への合流決定により、市民と野党の共闘の分断策動という逆流が持ち込まれるなど、かつてない情勢の変動のもとで行われました。その結果、連立与党は313議席、全議席の3分の2以上を確保し、改憲発議ラインを超えました。これに伴い、安倍首相は一生の課題である改憲への試みを本格化させ、平和憲法を覆し「戦争ができる国」を現実のものにしよう

と進めてくることは明白です。一方、財務省は医療や介護など社会保障の分野では、患者や利用者へ更なる負担を強いるなどの方向性を示唆するなど、依然として社会保障費抑制路線を強調し、「格差と貧困の拡がり」から目を背けています。「いのち、暮らしよりも軍事優先」と、いままさに安倍政権は戦前同様の道筋を辿っていると言えます。

このように多くの社会問題を抱えるなかで、高齢者をはじめ多くの地域住民が抱える悩みや問題意識に寄り添い、情勢学習を中心に開催されてきた県高齢者大会は、2016年度までに18回の開催を数え、社会問題にしっかりと対峙してきました。

今年度も、これまで蓄積された知識と経験をもとに、高齢期運動の更なる発展を求め、「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう ～憲法が輝く平和な未来と青森県を～」をテーマに第19回県高齢者大会を開催するに至りました。



記念講演・藤田孝典氏

4、プログラム

司会 武田しさ氏（津軽保健生活協同組合）

・開会セレモニー

「登山囃子」岩木登山ばやし保存会

・開会挨拶 二川原 一氏

・記念講演 藤田 孝典氏

・特別決議

・ストレッチ 青森保健生協健康体操サポーター
昼食

・学習講座・分科会

●学習講座

「我が事・丸ごと地域共生社会」構想と私たちの暮らし」

講師：大竹進氏（青森県社会保障推進協議会会長）



●分科会1 「今風 井戸端会議」

講師：福井典子氏（福祉倶楽部主宰）

●分科会2 「葬儀、お墓について」

講師：七戸俊逸氏（家族葬フューネス代表）

、まとめ

2016年度青森県高齢者運動連絡会総会にて県高齢者大会の参加目標（400名）を確認し、今年度4月から10月までの7ヶ月間にわたり、日程・会場選定はじめ、プログラムづくりなど準備をすすめてきました。

時節柄、県内各地で様々な行事が同時期に行われていたなかで、残念ながら400名という目標には届きませんでした。前大会とほぼ同数360名もの来場者を得ることができたことは、平和、いのち、暮らしをめぐる厳しいこの情勢に立ち向かい乗り越えようという気運の高まりを感じる、大きな成果だったと言えます。また、アンケートでの回答のとおり、板垣氏はじめ各種講演、分科会などいずれのプログラムも概ね好評で、高齢期をめぐる様々なテーマを集団で深め合い、力に変えるという意味では、今大会で得たものは大きかったと確信しています。一方、音響等運営について多少の意見が挙がっていたことから、一部に課題を残しましたが、大きな事故もなく、全体として有意義なプログラムを提供できたこと、加えて後援団体は昨年同様各自自治体やマスコミにも要請した結果、前大会を3団体上回る19団体・企業から後援をいただいたこと、青森県生協連など15団体から広告協賛の協力を得たことなど、広がりを持った取組みができたことは、今後の高齢者運動に向けた大きな成果と教訓になりました。

（「第19回青森県高齢者大会報告集」より）

一人の高齢者が亡くなることは、一つの図書館を失うこと 「孤立しない 孤立させない」社会をお互い様の想いで 地域のネットワークをつくる 11・11秋の講演会

NPO法人建築ネットワークセンター

恒例の秋講演会が、「孤立しない老後のために地域のつながりをつくろう」をテーマに11月11日、午後2時から新宿区の戸塚地域センターで約60名が参加し開かれました。



今回は講演とシンポジウム形式で行われ、日本高齢期運動サポートセンター専務理事・建築ネット副理事長の鐘ヶ江正志氏が基調報告し、「地域包括ケアの取り組み」について東京保健生協介護部長・齊藤恵子氏が、「空き家を活用したたまり場づくり」の経験を東京西部保健生協理事・山北敦子氏がそれぞれ豊富な資料と映像で報告しました。

鐘ヶ江氏は、日本は世界一の長寿社会を実現したものの異常な少子高齢化社会となっており、一人世帯、家族のいない人が増え、さらに社会保障・年金削減などの貧困、労働環境の変化などから、結婚しない単身世帯が増加していること、そして高齢者の孤立化、孤立死が増加し、23区では一日8.6人と深刻な事態であることなどを指摘。「孤立しない」ための高齢者への働きかけと、自治体地域働きかけと、自治体地域働きかけと、自治体地域の支援体制の大切さを強調しながら各地の

豊かな経験を紹介しました。「高齢者一人が亡くなることは図書館一つを失うことと同じ。大きな損失」と鐘ヶ江氏は言います。

シンポジストの齊藤氏は、65歳以上の高齢者の7人に1人以上が認知症と推定されている中で、一人ひとりの人生を支える地域包括ケアの視点での活動が話されました。豊島区に07年開設した認知症共同生活介護「グループホームみずくの里」や、14年に公募で選ばれた看護小規模多機能型居宅介護施設の運営や地域との交流などについて報告しました。建設地が地域活動センター跡地だったため難色を示していた地元町会も話し合いを重ねることで事業への理解が深まり期待が寄せられています。

杉並区で空き家を活用した高齢者見守り活動の拠点「松下さんち」や、子供から高齢者までの“たまり場”づくりに取り組んでいる2人目のシンポジスト山北さんからは、家主さんとの交渉やリフォーム資金作り、運営などについて経験が話されました。

参加者からは「施設の建築費は回収できるのか、採算は取れるのか」「プライバシーの厚い壁をどう突破したらよいのか」などの質問や「地域とのつながりにはさまざまな形があることわかった」「わが家の問題として聞いた」「地域包括支援センターを一度訪ねてみようかと思う」などの感想が寄せられ、関心の高さをうかがわせました。

(NPO建築ネット会員ニュースNo.169より)

12・1院内集会 社会保障・社会福祉は国の責任で

「社会保障・社会福祉は国の責任で!」12.1院内集会実行委員会

中央社保協、いのちのとりで裁判全国アクション、福祉保育労などを事務局団体とする実行委員会が主催する「社会保障・社会福祉

は国の責任で!12・1院内集会」が12月1日、衆議院内で開催されました。

集会は介護・診療報酬・障害者のトリプル

改訂、生活保護基準の改定議論が進められる中での開催。「国の責任で社会保障の拡充を求める」運動を広げていこうと意思統一しました。

集会では、「社会保障財源を確保するためにはどうするか!？」と題して慶応義塾大学教授・金子勝氏の基調講演を受け、各団体から実態告発が行われ、行動提起を確認。集会アピールを採択しました。

民進党・川田龍平参議院議員、共産党・高橋千鶴子衆院議員から連帯メッセージが寄せられ、社民党・福島瑞穂参院議員、倉林明子参院議員、立憲民主党・初鹿明博議員、民進党牧山ひろえ参院議員秘書が集会に駆けつけました。



◆安倍政権の振り込め詐欺にだまされるな!

金子勝氏は、冒頭「安倍政権の『振り込め詐欺』にどう騙されないか、その心構えを話します」として、「保育を無償化する、教育無償化だといって、消費税増税をうち出した。

しかし、待機児ゼロを実現するには程遠い中身、給付制奨学金も卒業後変換が要求されるもの」「医療分野でも入院期間を短縮して病院の効率化を図るといっていたが、病院から在宅・地域に患者を追い出し、『回復期病床』に移せば看護師配置を7対1から13~15対1に減らすという。これでは看護師の労働は過酷になり、地方の病院・診療所は存続できなくなる」「総選挙が終わったとたん次々と打ち出してくる」こうした安倍政権の手法は詐欺的と断罪。また、消費税を上げる論理が詐欺的として「高齢化で社会保障費が膨らむといって消費税増税がたびたび持ち出される。しかし、企業減税に増税分が回される。政府は企業減税で企業の成長の果実が国民に回ってくるというが、内部留保に溜め込まれるだけ。そしてまた、『やっぱり消費税増税だ』



という。90年代終わりから3回も法人税は減税されてきた。この繰り返しで、消費税は増税されても社会保障には回ってこない」「この結果国の借金は安倍政権発足の2012年から80兆円増え、企業の内部留保が82兆円増えた。それでも、安倍首相は法人税減税を続けるという」と批判しました。

そして社会保障財源確保させ、必要性とするすべての人が無償で受けられるサービスが拡充されるべきとして、保険主義から出発した医療・介護保険制度は、低成長時代を迎えて制度に限界が来ている」と指摘しました。

◆各分野から社会保障切り捨ての実態告発

各分野からの発言では「介護保険の改悪により、障がい者は65歳以上になると障害福祉から介護保険に移行する。サービスが削られ生活できなくなった」（障全協・羽賀典子さん）、「保育園では保育士を求人しても集まらない。保育の仕事はやりがいのある仕事。しかし、公定価格・自治体の補助での運営で80%が人件費だが、仕事に見合った賃金が払えない」（全保連・八木澤眞理子さん）、「歯科医療現場から、子どもの貧困の実態が見えてくる。親の経済困難な状況が子どもの口腔崩壊につながっている」（民医連・岩下明夫さん）、「世界一の長寿社会となったが、高齢者の孤立死が増えている。23区内の65歳以上の異常死は3,000人を超え、10年間で1.6倍。孤立化の要因は貧困」（高齢期運動サポートセンター・鐘ヶ江正志さん）、「18年4月から6割の経度利用者を自己負担とする介護保険の改悪がおこなわれた。2000年に制度がスタートしたときは介護の社会化と言われたのに、国家的な詐欺だ」（介護保険制度を守る市民の会・富田孝好さん）、「生活保護費の引き下げに異議を唱える裁判を全国で展開している。生活保護法の改正と併せて生活困窮者自

立支援法が作られた。この法律は『水際作戦』どころか、申請すらさせないように『沖合で止める』ものとなっている。今、基準部会では母子世帯や子どもの給付を削ろうとしている（いのちのとりで裁判・田川英信さん）

◆3つの行動提起とアピールを採択

集会は最後に3つの行動提起とアピールを提

案し、満場の参加者の拍手で採択しました。行動提起①各分野の運動の相互協力をすすめよう。②「社会保障は国の責任で」とした一致した要求を広げていこう。③平和であってこそその社会保障奈拡充。安倍9条改憲反対3000万署名を広げよう。

（全労連社会保障闘争本部ニュースNO. 39より）

社会保障・社会福祉は国の責任で! 12.1院内集会 アピール

誰もがいきいきと希望を持って安心して生きていける社会をつくることは、私たちみんなの願いです。戦争への反省とともに、その願いが託されて日本国憲法は生まれました。

憲法13条には、一人ひとりの生命が大切にされ、自由が守られ、幸せを求めて人間らしく生きることが最大限に尊重されなくてはならないと書かれています。25条には、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利が私たち国民の手にあり、それを保障する義務は国が負っていることが明確に示されています。

憲法が生まれて71年、私たちの願う社会は、未だ実現していません。残念ながら、今の日本には、「格差」と「貧困」が広がり続ける現実と、それを進めている政治があります。

保険料が負担できずに健康保険証を奪われ、医者にかかれずに生命を落とす私

生活保護を申請しても働けるはずと断られ、食事もとれずに餓死する私

生活と介護をめぐり、無理心中や殺人にまで追い込まれてしまう私

障害者権利条約の締約国であるにもかかわらず、なお差別に苦しむ障害者の私

保育園に落ちて、仕事を続けることができなくなってしまう私

公的な保育施設に入れず、やむなく入った劣悪な保育施設で生命を落とす子ども

人々が「貧困」におちいったのは、どこかで怠けたり楽をしたりしてきた結果でしょうか？

答えは No!

政府には、人々が人間らしく生きることができるよう、社会保障や社会福祉を向上させる公的な責任があります。それなのに、「財源には限りがある」として、社会保障や社会福祉の予算を削り続けています。「財源に限りがある」のではなく、公正な税制により財源を確保することも政府の大事な責任です。必要な財源を確保せず、一部に重点化し、社会保障を切り捨てているのが、今の政治です。

政府は「自助・共助が基本」だとして、自らの責任を地域に丸投げしようとしています。生きる権利が政府の手で奪われているのです。「仕方がない」では済まされません。

私たちは、今日、「社会保障・社会福祉は国の責任で!」と、人間らしく生きる権利の保障を求めて、ここ衆議院議員会館に集まりました。

国の社会保障政策を根底から変えることなど、私たちにできるのでしょうか？

答えは Yes!

さまざまな分野の発言で、現実の厳しさを知っただけではなく、要求を集めて行動すれば情勢は変えられる、消費税を増税しなくても社会保障の財源は生み出せる、そのことを確信しました。

今こそ、「私が権利の主体者だ」「私たち一人ひとりが国の主人公だ」「税金の集め方と使い方を変えろ」「私の生きる権利を保障しろ」「憲法9条を守れ」と声をあげましょう。

まだ、声を出せないでいる日本中のあらゆる分野の人々と手をつなぎ、つながってたたかいの共同の輪を大きく広げましょう。全国各地に巨大な連帯のうねりを起こして、人間の生命と尊厳が大切にされる 憲法が生かされた社会を私たちの力で実現させましょう。

2017年12月1日

社会保障・社会福祉は国の責任で!」12.1院内集会 参加者一同

主催：「社会保障・社会福祉は国の責任で!」12.1院内集会実行委員会

事務局：中央社会保障推進協議会/きょうされん/障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会/全国福祉保育労働組合/日本高齢期運動連絡会/いのちのとりで裁判全国アクション/全国生活と健康を守る会連合会

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

高齢者に係る社会保障関連政策に対する要望

1. 社会保障費全般に係る要望

- (1) 社会保障費自然増の削減をおこなわないこと
- (2) 生活扶助費の削減をおこなわないこと

2. 年金に係る要望

- (1) 高齢者が暮らしていける公的年金制度を充実させ、最低保障年金制度の創設を検討すること
- (2) 年金の毎月支給を実現すること
- (3) 年金支給開始年齢の引き上げを行わないこと

3. 医療・介護・福祉に係る要望

- (1) 「『我が事・丸ごと』 地域共生社会」の実現は、地域の実情に合わせて国の財政的保障で実施すること
- (2) 国庫負担を増やして払える国保料(税)に引き下げる。また国保資格証明書、短期保険証の発行をやめ、全ての国保加入者に正規の保険証を交付すること
- (3) 国保の減免制度を拡充し、国民皆保険制度の根幹として発展させること
- (4) 後期高齢者医療制度の短期保険証の発行をやめ、全ての加入者に正規の保険証を交付すること。また、後期高齢者医療制度そのものの廃止を実現すること。
- (5) 低所得者を含めた介護利用料の原則2割負担化をやめること。高額介護サービス費の自己負担限度額引き上げを行わないこと。また介護保険料を払えない人への対策を取ってください。
- (6) 生活支援総合事業の実態調査を行い、介護サービスを受けられない人が出たり、地域格差が起こったりしないように指導すること
- (7) 65歳で介護保険に移行する制度を見直し、最後まで障害福祉制度を利用出来るようにすること

4. 高齢者の雇用に関する要求

- (1) 高齢者の雇用対策を充実させること
- ① 貴省として、2018年度予算において、被災地や失業多発地域などにおける新たな緊急雇用創出事業などにより、失業者・生活困窮者・求職者などが安定・継続した就労ができるよう対策を講じるための予算を確保すること。また、貴省として、地域の実態に応じて自治体を実施する独自の雇用対策に対し、財政支援制度を創設すること。
- ② 貴省として、労働局を通じて全国の高齢者が自立して就労を促進している団体等の調査を実施し、高安法5条・36条にもとづくシルバー人材センターに準ずる高齢者事業団等への援助・育成等を行うこと。厚労省全体で総務省政令改正に伴う発注形態を見直すこと。
- ③ 「働き方改革推進法」(8つの法案一括)の一つ雇用対策法改正法案は、労働政策審議会職業安定分科会でも十分な説明も審議もなしに法案にしており法案全体を撤回すること。
- ④ 生活のために働きたいという高齢者や失業者、生活困窮者などにたいする公的就労事業を創設すること。

以上

2017年12月13日

日本高齢期運動連絡会代表委員 金子 民夫、林 泰則、松本 弘道、小嶋 満彦

東京都老後保障推進協会会長 城田 尚彦

担当者: 日本高齢期運動連絡会事務局長 藤谷 恵三

お知らせ

- ◇ 第31回日本高齢者大会 in 沖縄第3回中央実行委員会(解散) 総会並びに
第32回日本高齢者大会 in 熱海(仮称) 中央実行委員会第1回(結成) 総会開催のお知らせ
- 日時: 2018年2月19日(月) 午後1時30分から午後4時30分
場所: 衆議院第一議員会館 第1会議室

- ◇ 日高連ニュースは当面の間、隔月発行になります